

渡良瀬遊水地湿地保全・再生モニタリング委員会ニュースレター

第8回渡良瀬遊水地湿地保全・再生モニタリング委員会を開催しました

平成 26年3月13日（木）14：00～17：00 に、栃木県栃木市の藤岡遊水池会館において「第8回渡良瀬遊水地湿地・保全再生モニタリング委員会」を開催しました。

◆モニタリング委員会の概要

今回は委員5名にご出席いただきました。

【委員名簿】（五十音順・敬称略）

青木 章彦	作新学院大学女子短期大学部 教授
一色 安義	渡良瀬遊水地野鳥観察会 会長
大川 秀雄	とちぎ昆虫愛好会 幹事
大和田 真澄	栃木県植物研究会 会員
高松 健比古	渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会 代表世話人

はじめに、事務局より第7回委員会での指摘事項とそれらへの対応を報告し、委員の確認を頂きました。次いで、本年度のモニタリングの結果を報告し、調査結果の評価、考察時の留意点、今後のモニタリングのあり方などについてご意見やご助言を頂きました。最後に、事務局より今後の掘削予定と造成の考え方を説明させていただきました。

○主な意見

- これまでのモニタリングによって、地下水位の高い場所や冠水頻度の高い場所ではセイタカアワダチソウが生育できないことが明らかになってきた。この効果について、水位をコントロールする場所を設け、再度検証をできるとよい。
- 表土の撒きだしは、外来植物やヤナギ類を抑制する効果が期待できるので、それらの植物の繁茂が予想される箇所で行うとよい。
- 掘削が陸上植物の多様性を向上させているのは望ましい結果である。沈水植物が再生することも期待しているので、今後も水中に注意を払いながら植物調査を実施してほしい。
- 掘削地周辺の法面をなだらかにすることで、ヨシ焼きの火が掘削地に入りやすくなり、ヤナギの生育を抑制できる可能性がある。
- 掘削地ではカエル類が増加していることから、掘削地はカエル類の生息地増加に寄与している可能性がある。

【委員会での様子】

